令和８年度園評価に関する報告書

1. 園の目標

雑草のようにたくましい子、思いやりのある優しい子、ルールの守れる子に育てる

1. 基本的生活習慣の自立に向けて”やりたい“という気持ちを大切にしながら、自立心を育てる。
2. 生活や遊びの中で、豊かな言葉のある環境に留意し、正しい言葉を身につけ表現力の基礎を培い、情緒の安定を図る。
3. 家庭的な雰囲気の中で、子どもが子どもの中で育ちあう環境の下、子ども同士が自由に遊ぶことにより育つ人を思う優しさを育む。
4. 友だちと楽しく生活する中で良いこと・悪いこと・きまりの大切さに気づき守ろうとし、人と関わる力を育む。
5. 遊びや生活の中で、子どもの驚きや不思議に思うことを大切に受け止め、探究心・思考力を育み最後までがんばる。粘り強さ「生きる力」「人を思う優しさ」を育む。

2. 達成に向けた具体的な取り組みの計画

1. 子どもが見通しを持って主体的に活動できるよう、家庭と連携しながら生活リズムを整え、翌日の活動や準備物を共有するなど、安心して取り組める環境を整える。
2. 子どもの言葉や思いを丁寧に受け止め、「なぜ？どうして？」と考える機会を大切にする。対話を通して自分の思いを表現し、友だちの考えを聞き合う経験を積み重ねる。
3. 興味・関心に応じた環境構成を工夫し、子ども自ら遊びを広げ、試行錯誤しながら探究する経験を大切にする。保育者は必要に応じて援助し、最後までやり遂げる力を育てる。
4. 異年齢交流や地域との関わりを計画的に取り入れ、多様な人との関わりの中で思いやりや協同性、ルールや約束の大切さを実感できる機会を設ける。
5. グループ活動や専科活動を通して「やってみたい」「できるようになりたい」という意欲を引き出し、達成感や自己肯定感につながる経験を積み重ねる。

3. 評価と課題

1. 活動前に一日の流れや持ち物を子どもと確認し、見通しを持たせることで、自ら準備をしようとする姿や期待を持つ発言が増えた。不安を感じやすい子も、事前に説明を受けたり友だちと一緒に取り組むことで、安心して参加できるようになっている。一方で、活動の切り替えに時間を要する姿も見られるため、視覚的な表示や時計の活用など環境面の工夫を進め、より自立的に行動できるよう支援していく。
2. 日々の話し合いや遊びの中で、自分の思いや考えを言葉で伝えようとする姿が増えてきた。主体的な発言も見られるようになっている。また、友だちの意見を聞き、受け止める姿も育っている。しかし、意見が対立した際に感情が先立ち、言葉でのやり取りが難しい場面もある。保育者が仲立ちとなり、気持ちを代弁しながら対話の方法を丁寧に伝え、共感や折り合いをつける経験を積み重ねていく。
3. 簡単なルールのある遊びや体育遊具、サーキット遊びなどに意欲的に取り組み、繰り返し挑戦する姿が見られ自信につながっている。また製作活動では、友だちと協力しながら試行錯誤する様子が見られた。今後は活動の過程を写真や掲示物などで可視化し、探究の積み重ねができるよう工夫するとともに、子どもの興味に応じた環境構成をさらに充実していく。
4. 異年齢児交流を計画的に取り入れたことで、年長児への憧れや年下児への思いやりの気持ちが育っている。生活や遊びの中で自然に関わる機会が増え、遊びの幅も広がった。年長児は、小学校との交流会等への参加や、毎月の誕生日会での高齢施設の方々との交流を通して、園外の人との関わりも経験できた。今後は交流後の振り返りを行い、感じたことや学んだことを言葉にする時間を設け、社会性の育ちをより確かなものにしていく。
5. グループ活動や専科活動を通して、自分の得意なことや好きなことに気づく姿が見られた。達成した経験をクラスで共有することで認め合う雰囲気が生まれ、自信へとつながっている。一方で、自信の差が活動意欲に影響する場面もあるため、一人ひとりの目標を明確にし、小さな成功体験を積み重ねられるよう支援する。今後も子どもの努力や過程を丁寧に認め、自己肯定感を育んでいく。